

## 20周年の言葉

横須賀陸上リトルスクール20周年記念誌より抜粋(1982～2002年)

- リトルスクール創立20周年に思う 横須賀市陸上競技協会 会長 本間 慎司  
(前会長、現在は2007年より協会顧問)
- 走る楽しさ、走る喜び 横須賀陸上リトルスクール 校長 上村 公  
(前校長、現在は2007年よりスクール顧問)
- 創設20周年を迎えて 横須賀陸上リトルスクール顧問(前校長) 三澤 岑

### リトルスクール創立20周年に思う

横須賀市陸上競技協会 会長 本間 慎司  
(前会長、現在は2007年より協会顧問)

今から丁度20年前の昭和57年(1982)6月26日、当時横須賀市陸上競技協会の理事長をしていた私は、ジョギングがブームになりつつある中で、無理のない安全で健康的で楽しいジョギングの講習会を開かなければならないと言う思いと、他のスポーツ団体が小学生を対象とした教室を開き始めたことに、些かの焦りを抱き始めておりましたが、この日県立横須賀高校の校長室で開いた理事会の折りに当時副会長をされていた、青木良夫さんと私の共同提案の形でこの二つの事を次のように提案し、可決されました。

一般の市民ランナーが増え続ける中で無理のない健康的なジョギングの講習会を開き、三浦半島総走り運動を展開させよう。

小学生(5～6年生)を沢山集めて、陸上教室(リトルスクール)を開き、明るく楽しく、正しい動きの走・跳・投を教えて行こう。

そして、このジョギング講習会は、1回実施しましたが参加者が少なくそれ以降は残念ながら行っていません。

のリトルスクールは皆でポスターを作り、小学校や各町内の掲示板や京浜急行電車の駅構内に貼らせて頂きましたが、これが好評で40人程集まりました。

そして9月12日(日)午前10時開校式、当時は土曜日は毎週学校がありましたので、毎週土曜日午後2時から、殆ど毎週翌年の3月中旬まで行い、翌58年度からは4月から丸1年間として次年の3月まで行い、人数も60人近くになって参りました。

爾来本年まで20年間、年々参加者も増えて参りました。3年目からは横須賀市教育委員会からの要請があって、3～4年生のジュニアスクールも開校し、この十年ほどは毎年両方合わせて200人程になっている事は、誠に素晴らしい事業であると思います。当初から数年間は永年小学校校長をなさっていた若命勇治郎先生に校長をして頂きましたが大変有り難うございました。そして、当初スタッフは陸上競技の経験をお持ちの小

学校の先生方を中心にしてお願いをして参りました。提案者の一人でありました私は冬季は出来るだけ出席していましたが、シーズンになりますと、自分が勤めておりました学校の生徒の試合等と重なり、なかなか出て行けなくなって申し訳なく思っておりましたが、スタッフの皆さんはよく理解して下さっていたように思っております。有り難うございました。このリトルスクールが出来まして4年目の昭和60年に、日本陸上競技連盟主催・日清食品後援で夏休みの最後の週末に東京・国立競技場で全国少年少女陸上運動交流大会が開催される事になりましたが、その年の春から私は土日も出勤と言う勤務に変わり(県立体育センター)、スクールにも大会の予選会にも出席出来ず残念でありましたが、本スクールの子供たちが全国大会でも立派に活躍している事を聞いて大変嬉しく思っておりました。

そして、平成元年から始まった神奈川県郡市対抗少年少女陸上競技大会は、この横須賀陸上リトルスクールの様に年間を通じた教室が各郡市にも誕生して欲しいとの一念から発足したものであります。しかし未だにその夢は軌道に乗っていないのが現状であります。我が陸上リトルスクールの成功は、何と言っても不入斗グラウンドと言う環境と、素晴らしいスタッフ(小学校の先生を始め近年は定年退職をされた人や現職のサラリーマン、それにリトルの卒業生OB・OGの皆さん大勢)の熱心な指導によるものであります。子供達は自然に「お早うございます・有り難うございました」と言う様になりました。この中から何時しかきっと「日の丸」を付けて世界の檜舞台に出て行く人が現われてくるものと思います。リトルスクールの益々の発展を祈念すると共に、今までの皆様のご努力とご苦勞に心から感謝いたします、今後も宜しくお願い申し上げます。

## 走る楽しさ、走る喜び

横須賀陸上リトルスクール 校長 上村 公  
(前校長、現在は2007年よりスクール顧問)

今日も、子ども達の歓声が不入斗の地にこだまします。このグラウンドから、一体何人のちびっこアスリートが巣立っていったことでしょう。

早いもので、創立から20周年を迎えました。スタート時の試行錯誤の運営、活動から現在の安定、充実したスクールになるまでには多くの関係者の尽力がありました。活動の内容、組織作り、予算、広報活動などいろいろな課題が出てきました。しかしながら、スタッフの陸上競技の普及に対する熱い思いとグラウンドでの子ども達の喜々とした顔を思い浮かべると、何とかしていこうという動きに変わっていきました。かつては、十分とはいえない普及部でしたが、その活動の実績に対して徐々に存在感と評価ができました。具体的には、次のような内容が考えられます。

本スクールの趣旨(目的)である「楽しい陸上競技を理解させ、技能の正しい学び方や基礎的運動能力の向上をはかる。」「健康で明るい生活習慣を身につける。」が適切な設定である。

段階的な指導で、個々に記録が伸び、本人の喜びや励みになっている。すなわち一部の優れた者だけに焦点をあてるのではなく、スクール生全員を同等に扱った活動が日々行なわれていることの結果である。

基本的な動きの習得と基礎体力の向上で、選手としての実力を市、県、全国の大会で発揮する者が毎年現われている。他市、他県での経験は、その後の活躍に大いに影響を与え好結果をのこしている。

口こみで入校するものがほとんどである。このことは、活動内容に賛同する保護者の存在と本スクールの今までの積み重ね(歴史)が評価されている証拠でもある。子ども自身も、楽しいか否か正直に表現するもので、いやになったら足が遠のくものである。毎週休まず通ってくる子どもが多数いることは

その裏づけでもある。

本スクールの修了後、中学、高校、大学と陸上競技を継続し、実力を発揮、活躍している者が多い。このことは、発達段階(運動生理学的)を考えて、小学生の時期にやっておきたいこと、やってはいけないこと等を把握し計画、実施していることも大きな要因である。又、この20年間、活動中のけがもほとんどなかったこともこのことに起因している。

また、スクール生や家族の方々の声として次のようなことが出ています。

- 感想文より -

- ・陸上が楽しくなり、喜んで通っています。他校の友達もできました。
- ・他市(県)の記録会に出場させてもらい、大きな思い出と励みになりました。
- ・本スクールのおかげで、自分に自身がつき、いろいろな面で積極性が出てきました。
- ・中学でも陸上を続け、ジュニアオリンピックをめざします。
- ・夕方、時間があれば外で走っています。「努力は一日にして成らず」ということが本人なりにわかったようで、スクールは貴重な経験の場でした。
- ・部活(陸上)がないために入りましたが、リトルに出会えて本当によかったです。

このような声を励みとし、今後とも陸上競技の普及に邁進したいと思います。最後に、今日までご指導頂いた諸先輩の方々、ご理解とご協力を頂いた横須賀市教育委員会スポーツ課に感謝の意を表します。



## 創設20周年を迎えて

横須賀陸上リトルスクール顧問(前校長) 三澤 岑

20周年おめでとうございます。

思い起こせば1982年(昭和57年)6月26日、県立横須賀高校の校長室に市陸上競技協会の幹部が集まって小学生を対象とした陸上競技教室の開講についての最後の打合せをもち、本市の陸上競技の底辺を拡大する為、陸上競技教室を開くことを決定した瞬間を今でも昨日のこのように思い出されます。

月日の経つのは早いものでもう20年の歳月が流れたのかと感慨深いものがあります。

スタート時は試行錯誤の連続で現在のような月間活動予定表などなく、ましてや年間予定表など作るすべもなく、毎週土曜日の午後、10人程度の指導者が集まって、さて今日はどうかといった雰囲気の中でのスタートであったように記憶しております。

小学校で現場におられた先生方にカリキュラムを作って頂いて指導者に渡していたといった、手作りの練習メニューであったと思います。

幸なことにスタート時からグラウンドは市教育委員会の好意によって、不入斗運動公園陸上競技場を専用で使わせて頂いたことが、今思うと今日の成功につながっているものと思います。

全国各都道府県、或は又神奈川県下に於いて、このようなスクールを運営するに当たっての一番の問題点は、(1)練習場、(2)指導者、(3)金銭面 の三つがうまくかみ合っていないと成功しないと思います。

我が横須賀陸上リトルスクールは(1)の問題は完全にクリアしてのスタートでした。(2)についても当初、小学校の先生方が積極的且つ献身的に協力して頂いたお陰で基盤が確立していったものと思っております。

(3)の金銭面ですが、教育委員会からの本事業に対する補助金と年間スクール生からの会費で賅っておるのが現状で御座居ます。

又、スクール開設3年後の昭和60年に全国少年・少女リレー大会という名称で小学生の陸上競技全国大会が催されていることも追い風になって順調に育っていったと思っております。この全国大会はあくまで当スクールとしては年間の練習の一環として、すなわち普及活動の延長として参加することを指導者間で話し合いながら参加しておりますが、幸いにして第1回大会(1985年)から連続して17回大会(2001年)迄、神奈川県代表として選手を送ることが出来ましたことは一偏に指導者のひたむきな指導の賜物と深く感謝しております。

年月を重ねる中に当スクールの修了生が2000人を超えて来ております。中には日本のトップアスリートとして、インターカレッジで、インターハイで、ジュニアオリンピック等の大会で活躍している選手も輩出して来ておりますが、初期の目的であります我が横須賀市陸上競技界の底辺の拡大という事業の目的は着実に達成出来ているのではないかと確信しております。

最後にこの20年間、陰になり陽になり当スクールの発展の為に絶大なる御支援を賜りました、横須賀市教育委員会・日本陸上競技連盟・湘南信用金庫の皆様には心から厚く御礼申し上げ、これからも尚一層の御支援を賜ります様宜しく願い申し上げますお祝いの言葉とします。